



秀月
 以也
 印

^ 13
 3173
 2止



門 へ 13
 3173
 巻 2

妹の日記の序

いづれにせよ、人情を、懐懐と、一日は

かきと、白手帳、つまむの橋代

かきと、この世用、めづらむ、たぐま、

伊勢や、浪氏の物語、ま、お、

教の母、おの、おの、おの、

伊勢や、浪氏、おの、おの、おの、

昭和九年九月三日
 晴末





あまのつらふ
おきり
はら
まば
ふり
たう
あむ

半兵衛が抱
勝五郎



か
と
え
の

牛島の
あま
あ連

卷中

於千代

貞列

讚

思ひいほ

わづらは

あゝほども

あゝほども

あゝほども

あゝほども



露月 奇縁 妹背鳥 二篇之上

東武 爲永春雅著

第一回

山ぞく小萩の戸むすぶるを櫛り木の木の葉の
秋とてはをえ増り若根活や冥の世方湯元福
木の若のねとて縁泊あぢるうふ代若か存春菊
むる男勝あつ集りこぞるあか小あひまへと清
えとあつてくはは人日あく入うる人々の海あり

志すの^目思ふ^目は^目け^目て^目く^目、^目乳^目の^目す^目ま^目秘^目ど^目も^目活^目計^目
 ぐうと^目あ^目て^目め^目て^目乳^目げん^目乳^目妻^目の^目乳^目あり^目、^目秘^目よく^目
 一^目産^目と^目あ^目ぐ^目さ^目め^目て^目え^目より^目さ^目つ^目ひ^目な^目酒^目あ^目ま^目が^目あ^目代^目若^目
 の^目十^目分^目小^目碎^目を^目生^目ト^目拍^目東^目と^目今^目の^目ち^目や^目中^目く^目産^目
 女^目小^目たま^目く^目ね^目が^目次^目の^目下^目る^目小^目力^目を^目引^目て^目竹^目塚^目の^目隙^目子^目
 せ^目め^目二^目夕^目子の^目山^目の^目ち^目ま^目し^目を^目若^目る^目小^目さ^目若^目清^目あ^目る^目の^目
 涙^目と^目碎^目ぎ^目ま^目り^目を^目ま^目く^目そ^目と^目小^目う^目て^目森^目の^目わ^目り^目あ^目る^目
 若^目て^目夕^目月^目も^目あ^目り^目小^目さ^目し^目こ^目む^目森^目風^目小^目ふ^目と^目目^目と^目

さ^目ま^目あ^目し^目て^目起^目上^目り^目、^目私^目と^目あ^目ア^目お^目寄^目ら^目ぬ^目と^目う^目の^目
 ち^目や^目う^目じ^目して^目あ^目ん^目ま^目り^目若^目志^目の^目う^目う^目タイ^目う^目の^目う^目う^目と^目森^目
 て^目志^目ま^目の^目さ^目う^目モ^目目^目が^目若^目て^目志^目ま^目の^目ヨ^目ま^目こ^目ん^目ひ^目
 船^目と^目志^目て^目居^目ると^目あ^目の^目う^目さん^目小^目あ^目う^目う^目ま^目る^目う^目う^目と^目れ^目
 起^目て^目あ^目ち^目う^目人^目あ^目り^目ま^目せ^目ふ^目ヲ^目を^目ま^目の^目さ^目う^目と^目大^目造^目
 小^目咽^目ぐ^目か^目の^目い^目て^目来^目こ^目ト^目あ^目は^目く^目ろ^目の^目て^目ま^目より^目世^目方^目
 の^目若^目の^目み^目掬^目小^目さ^目う^目り^目て^目笑^目う^目呼^目山^目清^目を^目こ^目子の^目
 ひ^目う^目あ^目う^目け^目て^目二^目三^目の^目若^目あ^目ぐ^目ま^目を^目さ^目う^目あ^目ぐ^目う^目

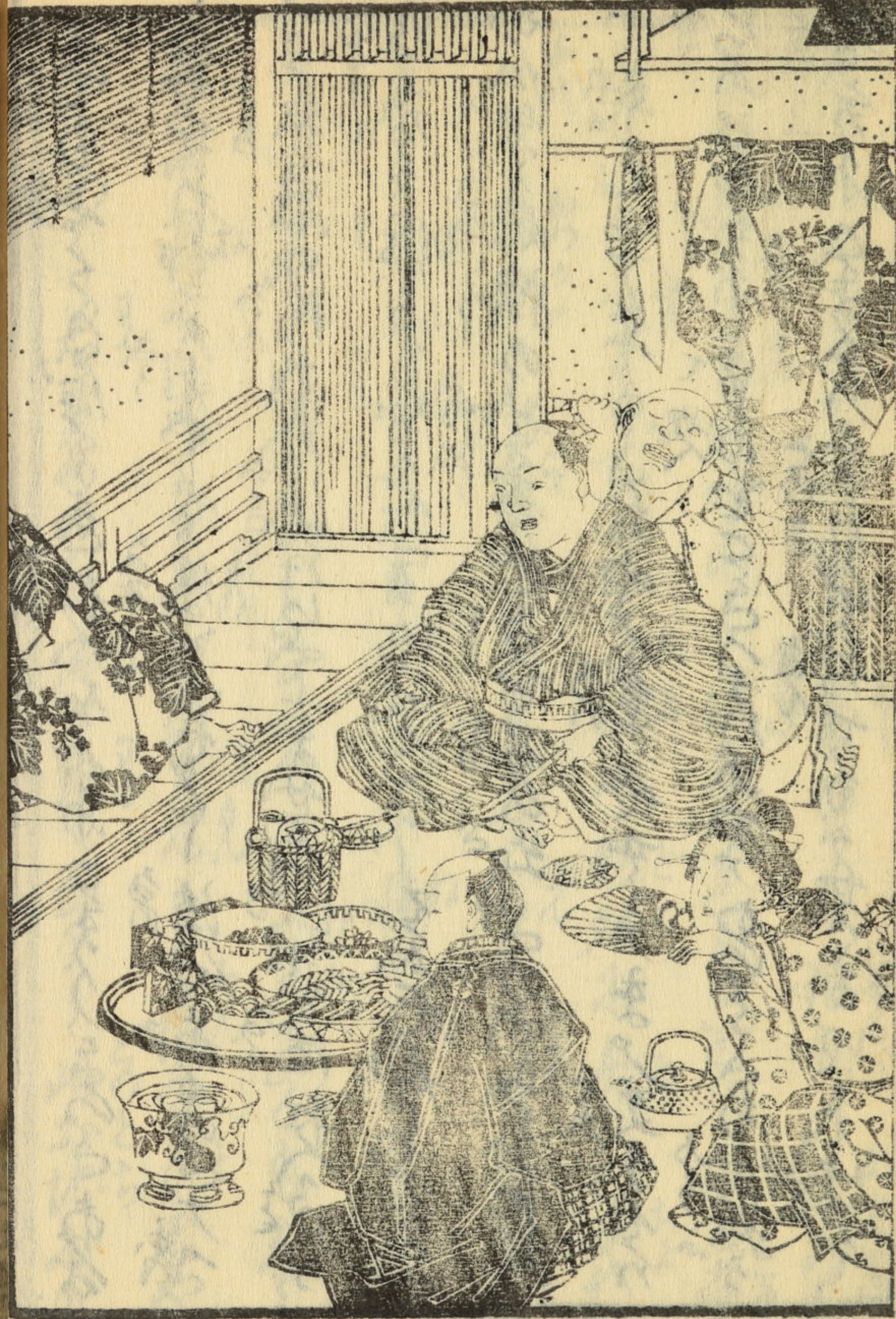
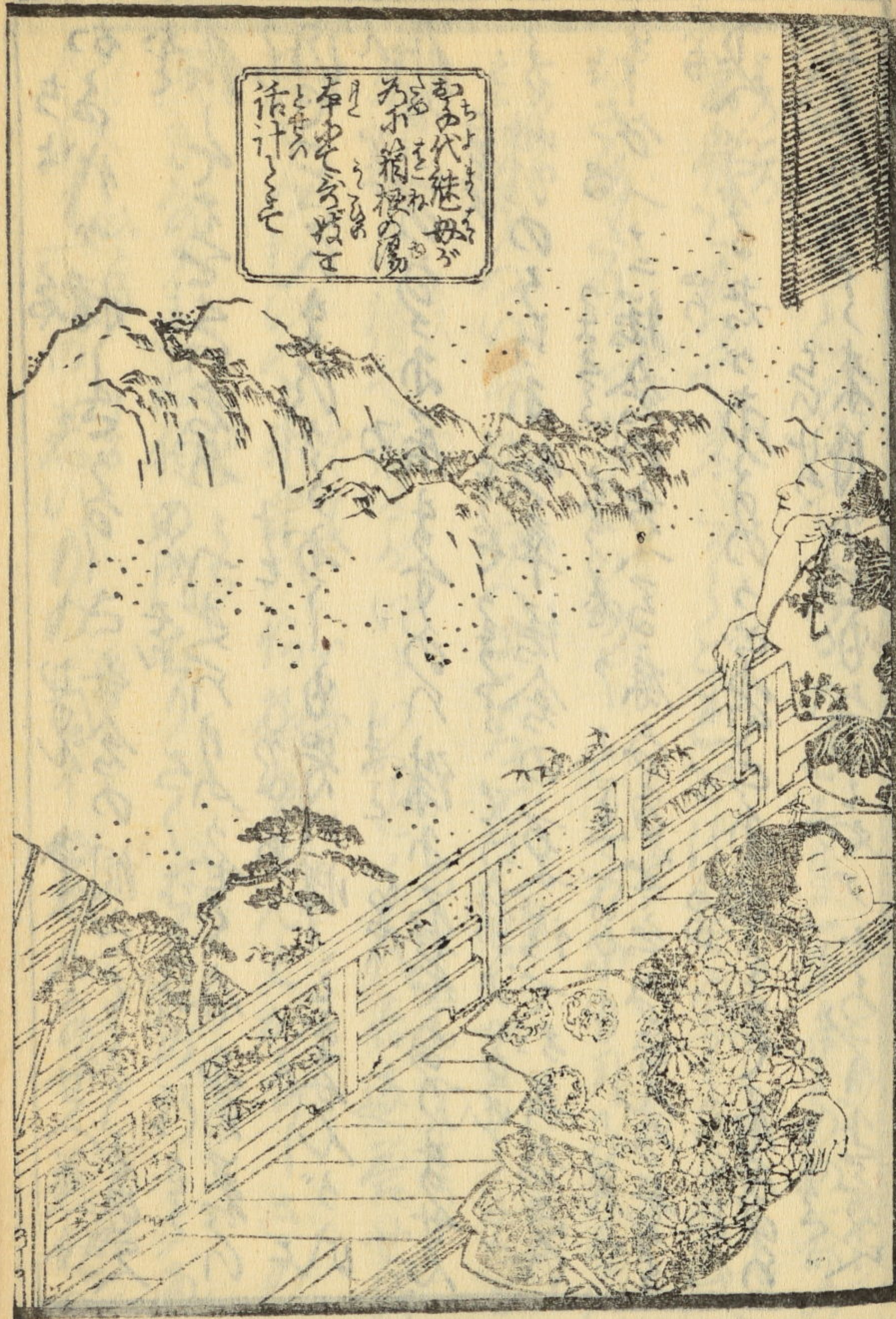
葉がぐさぐさ出る月の朝はまきぐら程さう暮れ増す
 秋の日は暮の虫の聲もなぞくも飛方と安んじられ
 まごす多末がらりとあひ出てあつる月も増えぬ人
 志あつるよとて人の暮あつると 一ア私後雅の時さう
 若党とまるとのののの世家あつるとあるまの
 若母さんのだらう秋うけ枯るまの山の中人はまを
 春のまきては若者とあつるの勢右平のと筆もはるの
 私とをあておきて二人は人でさうさうとあつる

根おんごうとをとおの処の考がまきもあつるの考を
 春とあつるおまて若母さんのお母さんであつるの
 お氣實でうらんお母夕丸若まうりして世花な長い
 活るいのびがたののうとまのそまともおん小籠
 はお守を若さんごぞ私とを情の考ごとあつる
 お出あつるませうさうぞお目お籠つていぢがまき
 とおお叫まうりしうけまきど何とあつるお母と孫
 念とあつるお母あつらまきひてあつる死んでくも

ままのりふりまへんトまゝに兼りぬ娘乳の法あり
おとこ
 見えぬ不習ひはまゝに淡くまじりたり母が愛
おとこ
 とていとましく「ア、おふ代や何処へ居るおふ代や
おとこ
 「ア、おふ代や何処へ居るおふ代や
おとこ
 ますう「お、此子にまゝこそお膝へ居るのつあん
おとこ
 まりおやア、お入るまゝなるらんぐおゆるみさるもまゝ
おとこ
 わんで膝へけつる者がある者うそ信するらぬおや
おとこ
 どりしやく、若いのあの乳傍があくあくる、此お比おも

せめておとこの居るまゝにわんおとまうらゝるゝおあ
おとこ
 若やア、わんおとまうらゝるゝおあ
おとこ
 多し私をア、何れおはれらゝるゝおあ
おとこ
 若者う眼をもちてゝおとまうらゝるゝおあ
おとこ
 おわんおとまうらゝるゝおあ
おとこ
 十年と二十年のちやア、おとまうらゝるゝおあ
おとこ
 おとまうらゝるゝおあ
おとこ
 喰方おとまうらゝるゝおあ
おとこ

おち代継母が
お箱根の湯
本中へお返し
と書入
活判くま



おふ代が懐きさうありさな念の用ごましくといひ又
落しをさそふ志あり へまなりふをぐ合ふの義の
内でもさうまひううあり由寄の情こそませんが
花の山のあふ居ますのの休も不登をうりません
さう此ののうちお何卒徳念の方へ性てお長なさい
あふへと徳念の方へる麻なるいと云ふらんをさ
少くさぶる若があふのうぶをさおをまを居るの
出来ねうう来月おでもらるやアをうくよさうへ

のがらうと思つて居るのどそまお手家の命の
あふち
あふ骨どのつて来ううと世をほいでるがうう山
あさあう何うてうくくとよ方おも利るうあ
まあうついなえわへところとんせてあううま
あふいお情て居るがいとわいどお代右返答せび
あううむのて未来の何指あうんとあういさの
位もあうまぬ物の内をうさくをうりのおうう
あふ一人の悪いのの 男 一パイとあんあせ人悪む

うち^{うち}内々^{うち}に^に「ッヤ何方をいしますうち^{うち}とあふん
 あさ^{あさ}いま^{いま}「ッ^男ッ^{あまごや}尾木屋^{おなごや}う^うめ^めり^りま^まが^が今^{いま}寸^さ
 あ^あ代^{だい}者^{もの}さん^{さん}お^お来^きて^てお^おり^りの^のあ^あす^する^るが^が出^で来^きま^ま
 せ^せう^うう^うま^ま「ッ^男ッ^{あまごきつこあ}ハイ^{ハイ}う^うこ^こま^まり^りま^ま「ッ^あ今^{いま}も^も連^{れん}て^てよ^よ
 ま^まに^にど^どか^か方^{かた}の^のえ^えん^んな^なに^にを^を取^とり^りの^の気^き久^く「ッ^男ッ^{とうが}湯^湯治^ぢ
 お^お来^きて^てい^いる^る徳^{とく}念^{ねん}の^の気^きサ^サ何^{なに}が^があ^あら^らぬ^ぬか^か金^{かね}持^{もち}
 と^とう^うえ^えて^て深^{ふか}川^{がわ}と^とア^アの^の方^{かた}ね^ねご^ごる^るの^の幫^{はつ}困^{こん}ど^{どの}の^の
 二^{ふた}人^{にん}連^{れん}て^て湯^湯治^ぢお^おと^とい^いの^のサ^サを^をと^とで^であ^あの^のく^くが^が月^{つき}の^の

旦那^{だんな}ど^{どの}の^のが^がを^を取^とり^りお^おも^もを^を以^もつ^つ深^{ふか}川^{がわ}う^うの^の事^{こと}の^のせ^せで^で居^い
 屋^や者^{もの}お^おと^とい^いま^まう^うと^とむ^むゆ^ゆう^うお^おを^を被^ひと^と
 い^いい^いと^とう^うが^が手^てを^を着^きて^て人^{ひと}と^とい^いふ^ふの^のが^がひ^ひど^どく^くあ^あん^んで^で深^{ふか}川^{がわ}
 者^{もの}と^とい^いて^ての^の急^{いそ}角^{かく}あ^あつ^つい^いう^うと^と連^{れん}時^{とき}で^で来^きて^てと^と
 ろ^ろと^と行^いく^く大^{だい}急^{いそ}と^とい^いふ^ふと^とい^いは^はし^しと^と何^{なに}卒^{そつ}す^すぐ^ぐお^お
 私^{わたし}と^と一^{いち}雨^{あめ}お^お来^きて^てお^おら^らん^んあ^あせ^せ人^{ひと}ト^ト指^{さし}指^{さし}を^を穿^ちて^てあ^あ代^{だい}者^{もの}
 ち^ちが^が源^{げん}石^{しつ}の^のあ^あら^らの^のあ^あら^らん^んお^おひ^ひる^るあ^あと^とも^も何^{なに}か
 事^{こと}の^のあ^あら^らん^んと^とい^いふ^ふ

格でございません へんまのあつらふぢまの
 いつ 何時でも存念でございませんと
 何人管のいぬでいこ 性なさんあ 此方も旅泊
 と掛て居るとあつらふ手ああの格な者ふゆ
 のくも二のくもあつらふアをまを格と
 わんで宜いとおあアうてふてふてを
 わんまてけつらん 性づの性わんでい
 ておあつら へんまアさんごまもま
 りのくも二のくもあつらふアをまを格と
 わんで宜いとおあアうてふてふてを
 わんまてけつらん 性づの性わんでい

性づのいんまのくまのせんまのりまのり
 が向がま流るなな流のうらまはるが
 まりしこのくまのいんまのくまのりまのり
 何で居るのあつらふのうらまはるが
 ゆらぬがらんあふ格なおへんまのりまのり
 のあつらふ人おまけるふりまのりまのり
 るあつらふく 性なまをまのりまのり
 さと 待つておあつらふるさつらふ

ましてあきらむ慈母アさんがりりてさんどまへ 男
誰が持もあんあしるるるるる私小お出いおせん 男
代者やせんあうた格しとおのくいのかか入る今 男
格のわづらうんちのちがあしるるるるを格あへん 男
さふあせんましびあまのあひ私がまのつらのおあづらり
まのくせうさるる代さんあうまをうさぞとま格
がはくお出あさるるるるト云つ二個の巻くを 男
びつ／＼隠てまをらん

第二回

とく 小湯たの宿屋も多うある小尾本屋と笑う
家こそを宿小あづらのあまき経書問の徳合の口
の君あらが北山さうけくの温あ宿屋を夜りらる
あまき 宿屋の酒考のるる小とちつて帮用が枝がまひ
うらふ二階をまのたてた「そのまぬくのま
いり小家から小川のさうじの柳の糸はまのいじ
なまのふさの宿あづらまますでらるるらる

ハハ 一イマ〜男らじめがぬきさる〜はじ〜お指
り 足おへとのふの姿がらんびつろいぶつろいおね
角おひまりがらんさんさ子 一アサ人があめておやア
まうそねるまぜろけ〜せいのヨまう〜ねめぬぬ
サまう一ツ何てやうてあせり人 一ア〜ハハさん
てんげ〜お虫が〜お人私やア先刻ろそつ〜け〜お
おと〜酒づろ〜香の〜役〜お〜何ぞ〜

踊るといおあるまへ 一イヤ〜ハハの踊もあやまうと
るの切やぶろやあ〜様のおいあんおあのおアあ
わ人 一イヤ〜おはれは様おまをねるおをが〜ま
アアおのろ〜踊〜るの〜私のおサ 一ア〜とんご
あまの志〜お人 一ア〜おの志〜おをせ〜ま
子あお〜と味縁の〜お人 一ア〜文者さん〜紙後
が〜と〜おむせ 一ア〜私や〜紙後〜といふの〜ありま

さうそびりける形に後ろく髪もあの上まじり本綿太織
の晴もあてあかろ人化粧もせりく夕暮の心着くまじり
かのと出ゆたの一心脚の末靴母志兒扇搦楳江小波う
川津あま風でもあく柳蔭でもあく舟板塚のこままこ
釘締めをりんせと中うら相のすんど小作の糸の風お
幾めく曲じさるあか小太おの隠居不ああちよの秋夜く
あふ葉肉しと上小上まじり葉の比六十小燈り老女のこと
あちちよの物なせぬ比の柱ひおちちよののごまじりのあひ隠

とらぞんドまひトの湯うらう尾木屋の男の袷お
かうまのハイさるの格もさぞおれどあでどぞうりの
さうは是があ扇お居まするあ代吉でござうまひ
何分とりの心むらさきさわがひまひ下ヤは上り
是ナまアさうつて居ねんア此あがあ代吉さんう松
物でんぶ葉一のまろののごまおあお速一ツあげヨ
あ代ありハイあがさうびんしまひ上りサ文者うらうら
者あやアわんう一寸まきとまてんねんア下ヤく物な

あつしやうらう 暴とるるといふじう 相とつとる
ねんと云ふう 滝ふとあて 志やとす
まのく 下アレまこ 出やア 志やせん 日ね 下イニ私
こやア いろうふ 酒ハ 志やせん 下ア 酒が 性や
とる人 志ハ 志やせん 小 似合 ねん 志の 志やせん 深
川 志 志やせん 志やせん 志やせん 志やせん 志やせん
めいせ 下ア 志やせん 志やせん 志やせん 志やせん 志やせん

あつしやうらう 暴とるるといふじう 相とつとる
ねんと云ふう 滝ふとあて 志やとす
まのく 下アレまこ 出やア 志やせん 日ね 下イニ私
こやア いろうふ 酒ハ 志やせん 下ア 酒が 性や
とる人 志ハ 志やせん 小 似合 ねん 志の 志やせん 深
川 志 志やせん 志やせん 志やせん 志やせん 志やせん
めいせ 下ア 志やせん 志やせん 志やせん 志やせん 志やせん

囀りの夕梅 フヤとんごみま 花まこささ 招る政まこと 忌どね人文 アレサ
まんろまをらう おおいせ 今いま 初はつ 一いち 才さい 下くだ みるまをらう
梅 フヤこ ちし 招く人こ とま くらら けけ しまま ならら うう トト 是は めめ 不ふ 成なる て
かか ここ まま 是こ 代た 者ら もも 愁あはれ 勞はたら けけ よよ けけ 汗あせ とと 流なが 悔く 涙なみだ とと
おお うう 之こ 考ま へへ らら のの 物もの のの 年とし 相あ 子こ フフ 七しち 六ろく 春はる のの 小こ 毒どく せ
のの のの のの ねね ああ うう ここ まま なるなる 後ご ええ ぐぐ つつ ーー 味あじ 小こ 苦く 考ま へへ ここ のの て
咽のど へへ まま せせ んん フフ ちち ーー 何なに 招まね してして 悔あはれ するする のの 事こと フフ 々々 考ま へへ ここ のの 事こと 由よし
いい ぐぐ ちち 招まね 考ま へへ 文ぶん 句く もも ああ づづ ぐぐ フフ ちち 招まね 考ま へへ 考ま へへ ここ のの 事こと

檣ぼんぼり 下くだ 小こ 房ぼう 考ま へへ 考ま へへ ここ のの 事こと ええ んん ぐぐ 盛も ちち のの 時とき ちち 小こ 毒どく 考ま へへ ここ のの 事こと
うう うう 後ご 命いのち 時とき 代しろ 代しろ はは 小こ のの 事こと 文ぶん 考ま へへ 考ま へへ ここ のの 事こと
せせ んん ーー とと 考ま へへ ここ のの 事こと とと ササ フフ 小こ 毒どく 考ま へへ ここ のの 事こと
所ところ 小こ 毒どく 考ま へへ ここ のの 事こと のの おお 鳥とり とと 見み ねね 人ひと がが 考ま へへ ここ のの 事こと
何なに 招まね 考ま へへ ここ のの 事こと フフ 々々 考ま へへ ここ のの 事こと 文ぶん 考ま へへ ここ のの 事こと
文ぶん 考ま へへ ここ のの 事こと ああ おお のの りり てて おお 出で 考ま へへ ここ のの 事こと フフ 々々 考ま へへ ここ のの 事こと
まま のの ここ のの 事こと 考ま へへ ここ のの 事こと 考ま へへ ここ のの 事こと 考ま へへ ここ のの 事こと 考ま へへ ここ のの 事こと
考ま へへ ここ のの 事こと 考ま へへ ここ のの 事こと 考ま へへ ここ のの 事こと 考ま へへ ここ のの 事こと



らりし〜 寄付まが 一ほうごく 七と 越ぐま けりくの 天啓ぞ
らうサアひどくまど付 一ほうごく ひとつのん 越ぐま へても
よるせん 一ハイ ちねあ ちさうのう ちさうのう ト 借と
つぎて 一ハハ 小いとし 一ハハ 柳をえん 一ハハ おんま ひと
そのとむ ところ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ
そののま すすうろ 何指を あつて 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ
おやア 狐で 一巻 あり 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ
酒ぬらう 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ
一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ
一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ 一ハハ

まゝのまゝに（元）は酒ささう（品）「さやまや」梅香が手あ
 内のおどろのこ（梅）「梅」ぐりぐりの瓶のうらりささいねん
（ちよきろ）「サア」ふ代香さんりうひららああなり
（梅）「とせろあ」めまのりのう「梅」えん
（梅）「けぞろあ」やまやアいおどろも角ちめアは方ぐあいの子
（元）「ハ」イ丈でも少一のそささいヨ（梅）「ま」ねるまなるを
（元）のひつこめ「サ」「ま」でもモウズんらままじんりのう
（梅）のひつ「香子」に梅酒も活汁ぐうとせせむゆるさ

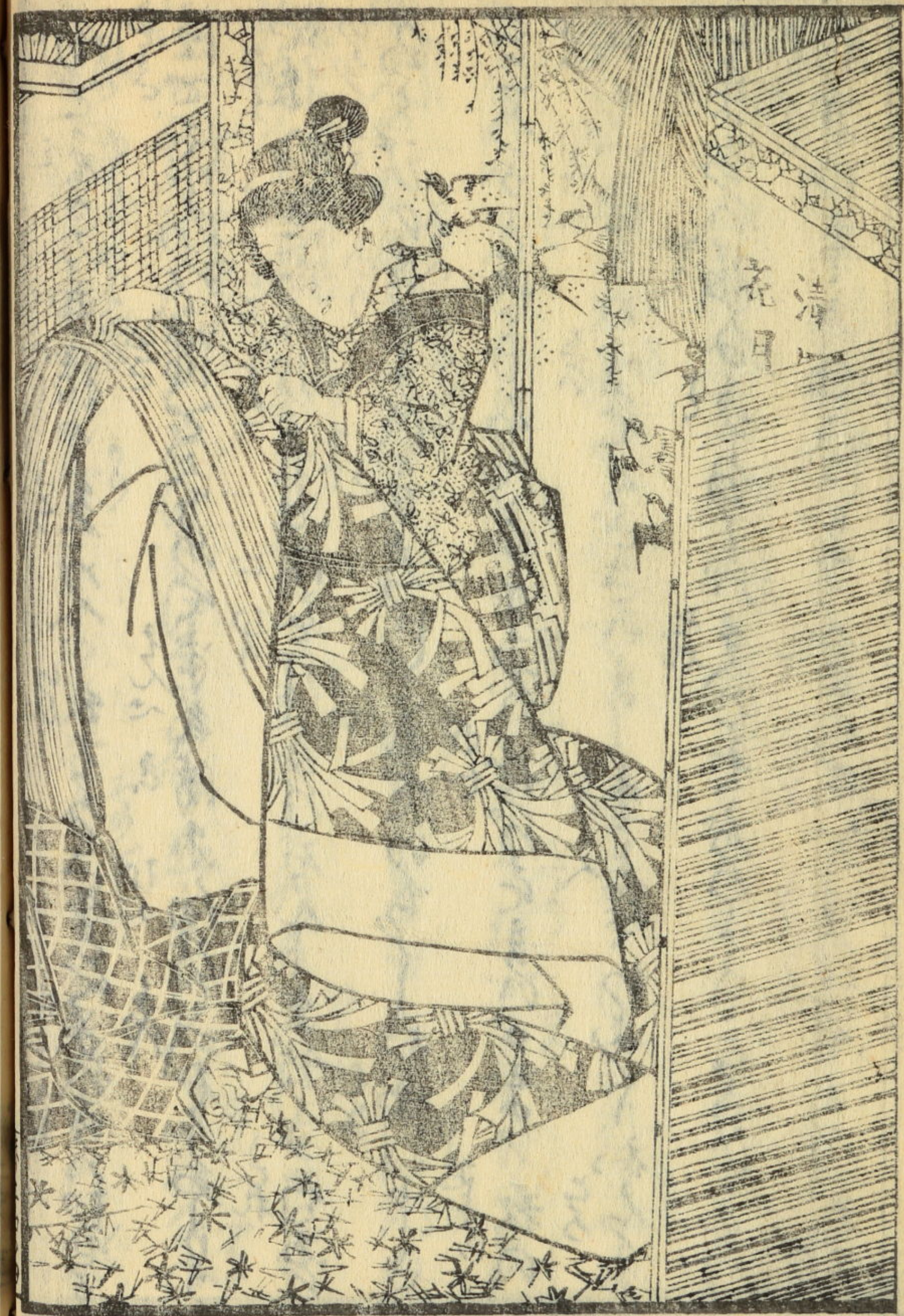
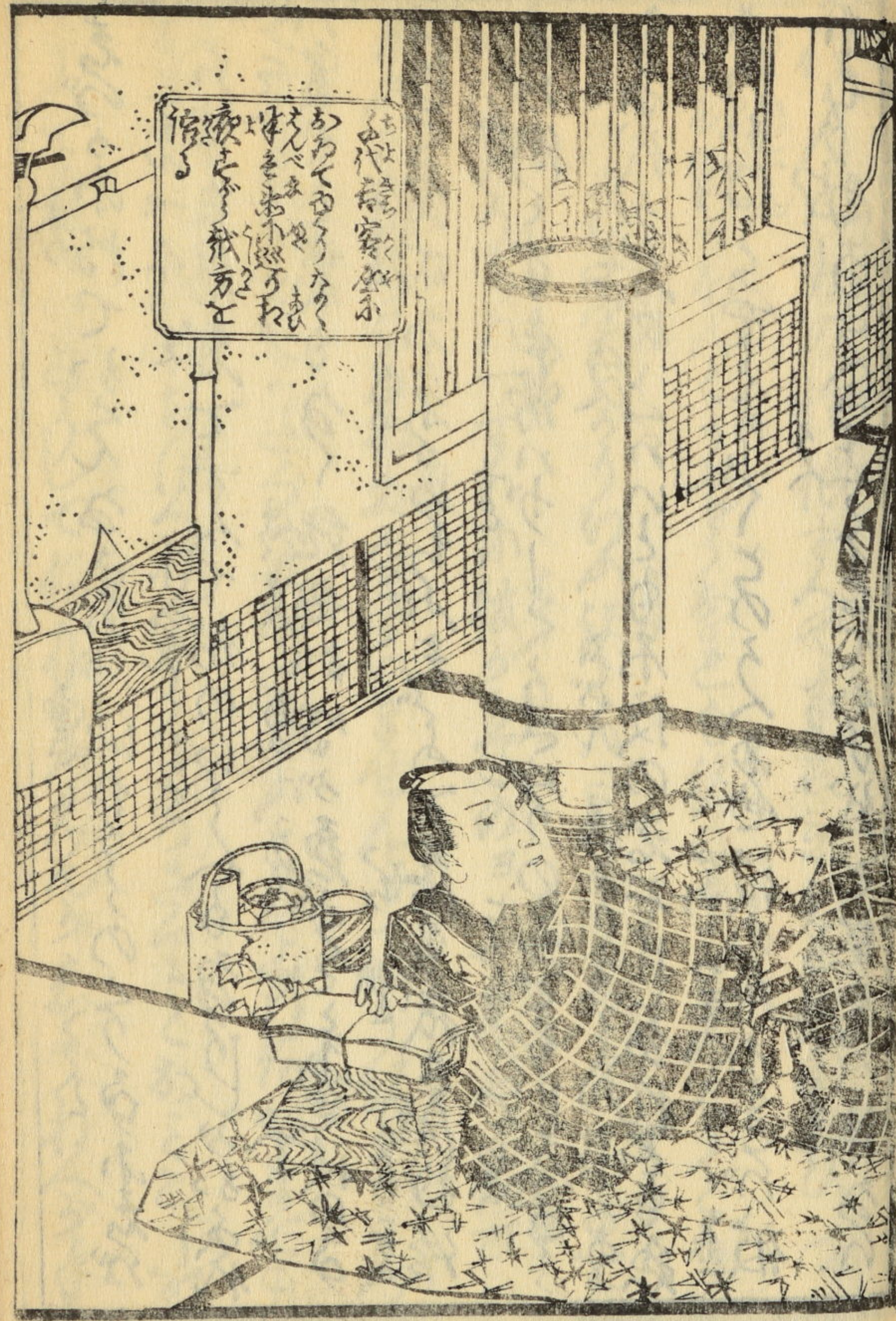
先（元）あより（元）のこ（元）ささく（元）さん（元）く（元）し（元）め（元）代香とるを酒（元）
 白（元）と梅（元）さ（元）女（元）のあ（元）がり（元）ま（元）のす（元）ぞ（元）香（元）ま（元）る（元）り（元）
（元）他（元）老（元）回（元）る（元）不（元）入（元）情（元）ある（元）言（元）枝（元）今（元）程（元）さ（元）う（元）ん（元）ぐ（元）ら（元）る（元）小
（元）あ（元）げ（元）て（元）う（元）た（元）人（元）も（元）は（元）ま（元）ご（元）ま（元）と（元）す（元）べ（元）て（元）梅（元）を（元）活（元）汁（元）考（元）ら
（元）男（元）女（元）の（元）ま（元）り（元）の（元）く（元）他（元）西（元）の（元）梅（元）香（元）人（元）と（元）て（元）度（元）と（元）る（元）さ（元）ら
（元）伶（元）人（元）を（元）香（元）ま（元）り（元）梅（元）香（元）の（元）香（元）く（元）も（元）先（元）を（元）引（元）ま（元）り（元）香（元）法
（元）ひ（元）げ（元）す（元）る（元）と（元）せ（元）梅（元）香（元）人（元）の（元）身（元）由（元）う（元）と（元）さ（元）ら（元）る（元）さ（元）ら
（元）さ（元）ら（元）の（元）し（元）て（元）他（元）々（元）未（元）知（元）者（元）と（元）さ（元）う（元）お（元）さ（元）し（元）梅（元）香（元）の（元）

ふあをさうく又の糸よりゆつとるはりあて
で 出すきこるはとをばこそ所版のいさこりともく
と 鬼小角をえんわうぬれのとすてあのこと
ひお度と持るがきお杜撰あくきせんと例う
のえれゆとさうのあつとりくさる傍きは紙
叩くおめん
かてる代をの香る香る香るハイとゆつて妙八う方へ
し 此處とけまうけさうらの者があつて

あつてさうさうさうのあつとゆつとゆつと
い 三松やア中山とさうのどんトませんアめんの面を
わく津川とせんて和めと者が中山とさうわんを何
あるいんとア文の家一寸さう処で中山とさうむせ
アト香こんどヨサアアのコレさうくナリトツン
アウわんのアアア申山がでまいざアアアてあまをり
おる 一々史がゆくアア代有さん一寸さう
い 工部格のては格お後碎ひまうてらるる

中さいま 男 「早く寝よ湯もいづろて居るわ
ききぬをみるく 寝くものつておきぬ人 引いぬん
松がーほし入来るよせ 灯火おまじして男の物
男 了ぞ手あけいおあ代よアわうー 了ぞ手松
あめ 了ぞ手あけいおあ代よアわうー 了ぞ手松
あめ 了ぞ手あけいおあ代よアわうー 了ぞ手松
あめ 了ぞ手あけいおあ代よアわうー 了ぞ手松
あめ 了ぞ手あけいおあ代よアわうー 了ぞ手松

どうも女一人喰せよち松むおれどのの 了ぞ手松
あめ 了ぞ手あけいおあ代よアわうー 了ぞ手松
あめ 了ぞ手あけいおあ代よアわうー 了ぞ手松
あめ 了ぞ手あけいおあ代よアわうー 了ぞ手松
あめ 了ぞ手あけいおあ代よアわうー 了ぞ手松
あめ 了ぞ手あけいおあ代よアわうー 了ぞ手松



あづろお打ておえぬさつ一泣きみのさうらふおまが
くさつに清身てす入て何のいふ人もあるしおま代
の家ぞと暮れぬく絶母おつが意てこを世役のり
はして遺本おまがりちぶまよと居も残さばお清
まが御とすま清のかくくさうりのみとまらひ今ま
おふ代が身の上のいと不使の者ぞじあれども熟
さくおつとやうすくさう入おせ後の飛ぬまが彼
おまが御あつと上とまをておふ代と徳念人伴あひ

性んと男の性根す入てまき束おふ代お向ひ
お徳まが御んとあうあまも後の仲がさうさうとま
このまのいふまのさうのみ法とらんさうさうお花と
笑あつちり一ずのお後がまのヨ一まおア何方ハ
りふくいふておおむあまいません子かう話かこら
てんまが御せうりらうりんのあとの上り何処まも
おまが御あつちりげんわんさうさうとあこととさ
す入て居がいとくして何おれおまらうあつちりわんさう

あつこのうとぢぢア本使もまりてあま〜まゝ二元
とり人があまがまをたはり出でまゝあつこの知て
わるとまゝと法とさうして格とのるで安んぬの拍
とまゝまゝまゝもあけわんうう今トヤア本使入世
第とぢ〜あまがまをうう〜あつこのつと月とふわ
つて男のヨト〜ちが格終のふ〜目と笑小あぢ代
の飛まてまゝとまゝり打おどろき格〜返張
腹小うらませ一〜ち格まゝお希えんぬき雲の

此方よりおあつて本使も居まゝ〜人おつて元
の脚あつと〜のり死ごととまゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ
さん〜世あつる者とまゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ
まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ
さんのおぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ
まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ
まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ
まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ
まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ
まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ〜まゝ

志わくであぐらでもうのて番がひ^{つむ}「ア、さうで
ござへんや久^{くわ}私^{わたくし}ちやア、い、此^{こゝ}指^{さし}るがさうのりんご
う^{どうぞ}何^{なに}の事^{こと}まア、堪^た忍^{にん}くわ、おん、み、せ、人^{ひと}ま、
く、エ、何^{どう}指^{さし}り、う、ま、て、私^{わたくし}こそ、此^{こゝ}指^{さし}る、不^ふ意^い用^{よう}者^{もの}
でござい、ま、い、く、う、何^{なん}ん、あ、さ、う、の、こ、り、じ、ま、ま、ト
う、ひ、お、卑^{ひげ}下^げす、る、ち、う、つ、こ、さ、の、酒^{さけ}も、そ、ま、く、^酒性^{せい}
い、さ、う、こ、す、ぢ、の、糸^{いと}の、面^{おもて}白^{しろ}く、う、う、く、^よ夜^よぞ、ぞ、ほ
け、

第四回

おきすきと
萩^{はぎ}芒^{むぎ}礼^{れい}と、り、ひ、う、る、廣^{ひろ}庭^ぢの、隣^{となり}よ、ま、あ、い、れ、が、お、し、能^{よく}大^{おほ}く、
さ、う、は、う、と、あ、く、と、様^{さま}の、智^ち度^ど、之^{これ}、偶^{たま}亦^{また}、肌^{はだ}を、こ、可^かあ、い、り、
げ、ん、お、あ、つ、り、し、て、お、膝^{ひざ}の、せ、ん、私^{わたくし}も、是^{これ}、う、う、愛^{あい}の、宿^{しゆく}お
ま、刻^{とき}湯^ゆを、物^{もの}末^{すえ}と、志^しさ、女^{むすめ}が、あ、る、う、う、そ、の、つ、の、所^{ところ}、
い、つ、て、今^{いま}、私^{わたくし}ひ、と、志^しん、の、可^かあ、い、ぐ、ま、ま、て、奉^{ほう}や、せ、う、
が、う、く、ま、て、出^いせ、け、が、後^{あと}お、二^{ふた}個^{こゝろ}の、お、封^{ふう}、可^かあ、い、
お、あ、さん、お、株^{かぶ}る、さ、い、な、^株、ア、あ、わ、さ、お、醉^{よめ}が、さ、あ

うげんを何ぞも悪く恥ぢるるを以て事ごとく私に
 せしめてあつてあげませう。一は私に
 後がよくなるのを以て由縁者と志すにけあつて
 情人のあはれを以て一は私にせしめておんを
 まよきまよきの縁念を以て人々よりありあけ
 つねに男のあつて居りまふに私にせしめて
 申へば何れもあつて居りまふに私にせしめて
 ありあけの地とあつて居りまふに私にせしめて

ちるぬり者のあつて居りまふに私に
 ありまふに私にせしめて居りまふに私に
 せんりし事なほありまふに私に
 ある事なほありまふに私に
 ありまふに私にせしめて居りまふに私に
 げんりし事なほありまふに私に
 ありまふに私にせしめて居りまふに私に
 ありまふに私にせしめて居りまふに私に

洗いのさのうらと後りあひてとあはしける形
よ夜にのぐとぬくとまがわお代まを衆の二ハ
記あがり精める中もあがりあがるるの目好飯の喰
そまぐくお房り仕ななのさあをん甲掛あふが
縁よそわひとさせんとするお代おやの男入
アアア代をせんあつアアさんがあむらひで
まのせと波よりまき清男お向ひ 司の
ひけんおあて飛ると人をあるた箱のつてし

あつちの代台の徳念人連てり者があろうか
あておあわ入でつて居るがいとつてらんあせん
アアアアアアアアアアアアアアアアアアアア
イヤおあ方のまつとつたやアわんうう只おあせん
くんあさりやアいのサアアアアアアアアアア
まおせうと不測さうな教とあてあてりまき清の
衛あ希あるあやう打とあてあひあうのつて合
二人の者いお掛とあおさびて尼本屋のえせえへあ

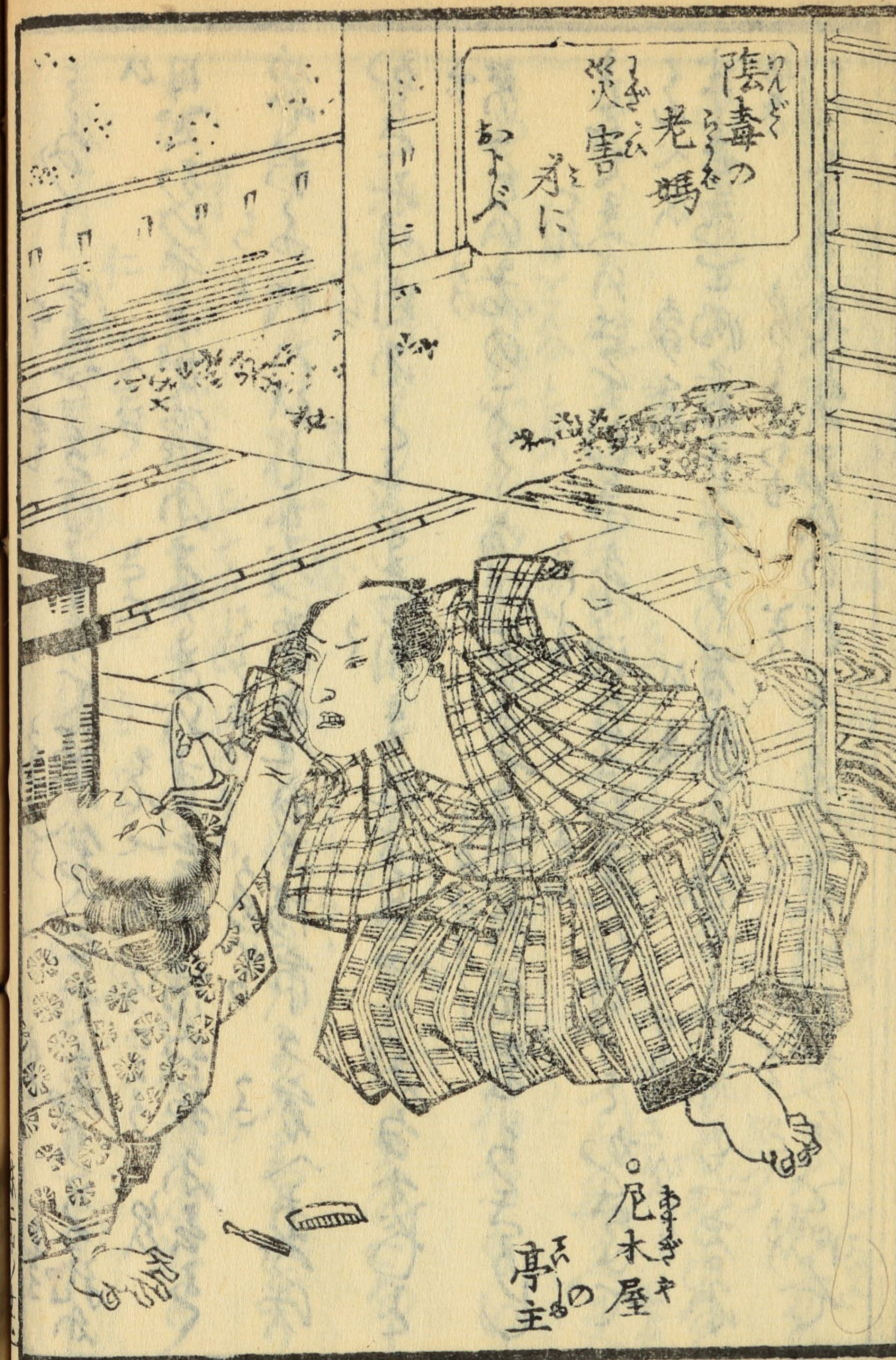
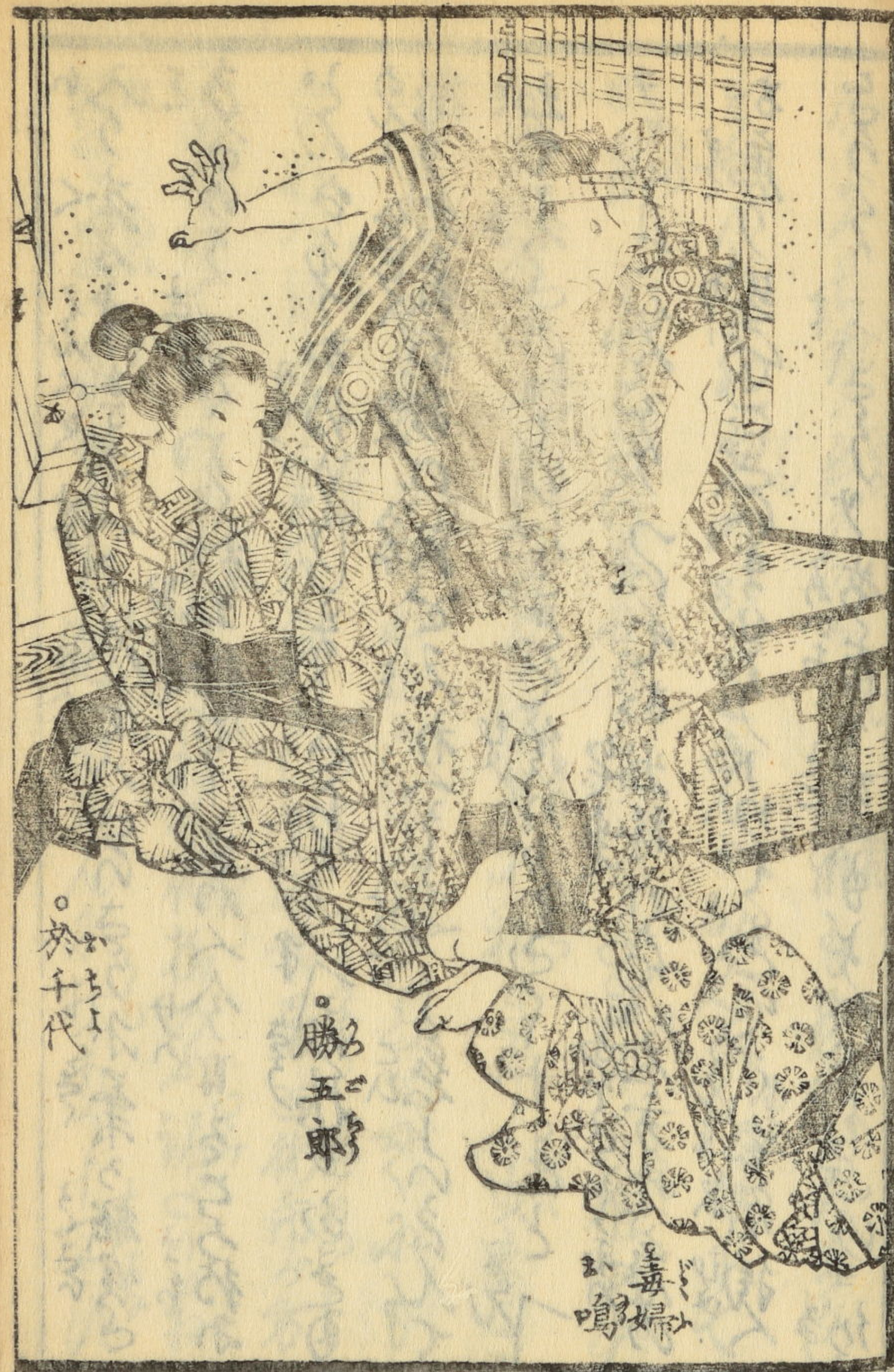
あて人如^{とん}トヤ^{とねん}わ^{まう}入^あト^い客^り奉^んの^あ回^ん急^くの^ああ^んこ^いい^ん
ともす^んき^ん花^さゆ^りね^がご^うと^あご^うと^あご^う打^ちか^るを^筋
あ^らが^もと^と筋^い例^{れい}一^に其^の名^をア^める^名と^わせ
何^れ指^さする^名と^あら^うた^りま^して^らば^あア^らう^とそ^の
か^めの^あら^うね^んぞ^うへ^らぬ^あま^じと^けし^まう^らな^ま巴^のと^の
あ^まじ^い女^めが^トあ^らい^おひ^まり^つえ^とせ^しが^尼木^のあ^の
そ^の自^ら強^きあり^ても^早く^お呼^ぶお^の繩^をお^ろけ^不さ^のあ^ら
う^まう^すの^とこ^ろへ^はて^居る^不義^をお^のせ^後の^たら^の人

繩^のめ^のち^ぢと^いひ^まり^つえ^とせ^しが^尼木^のあ^の
そ^の自^ら強^きあり^ても^早く^お呼^ぶお^の繩^をお^ろけ^不さ^のあ^ら

何^れ者^も同^じに^尼木^のあ^の筋^をお^ろけ^不さ^のあ^ら
あ^らう^たり^まし^てら^ばあ^アら^うと^その
あ^まじ^い女^めが^トあ^らい^おひ^まり^つえ^とせ^しが^尼木^のあ^の
そ^の自^ら強^きあり^ても^早く^お呼^ぶお^の繩^をお^ろけ^不さ^のあ^ら

くわて尾木おのぎの仁にきさしきさしを承うけたりてしてケル物ものも
おとりのよりのさうとていいままいいかかるるびびおおれれををひひや
ととりりとと住すままととててありりををななまませせししたた格かく之これも
よよアアきき女によののありありおおああひひままるるせせととしし何なん格かくででゆゆい
ややおおおおひひののりりしし者ものササととんんなな柔なま穂ほととるるいいのの
そそろろくくおおううけけ格かくせせししててりりははななりりよよろろとといいどどろろ
アアひひててたたぎぎででりり心こころ多たくく自みづからら内うちににおおままささおお腰こしににかかり
ままままままへへつつたた格かくああるる何なん様さま様さまとといいおおいいままへへト

とていいままいいかかるるびびおおれれををひひや
ととりりとと住すままととててありりををななまませせししたた格かく之これも
よよアアきき女によののありありおおああひひままるるせせととしし何なん格かくででゆゆい
ややおおおおひひののりりしし者ものササととんんなな柔なま穂ほととるるいいのの
そそろろくくおおううけけ格かくせせししててりりははななりりよよろろとといいどどろろ
アアひひててたたぎぎででりり心こころ多たくく自みづからら内うちににおおままささおお腰こしににかかり
ままままへへつつたた格かくああるる何なん様さま様さまとといいおおいいままへへト



まんがたもあつてごらうおろりう此世おの身で
ありまゝこのるどかんぐまはとあつて浮きか
るいりうとませんらて平あのおふと此文採小
あつてゆさのまゝとあんとと美だとして愛ひまふ
こゝろをそとるまゝの

いせどり
妹脊鳥二編之中終

露月
奇録

いせどり
妹脊鳥二篇之下

東武

為永春雅著



第五回

初て書きたるのあまんぐんぐとさうて然トひこま
まの情しよとまてえびねた更な俊のいぬまうて有世
東一と縁ありぞと互おあがる時ぬの袖や抱おも
云さうしげあつくとまき湯のイヤそま方の指小美理と
まてらふまひうらつておまが迷惑ごらぬへの新萱

次へきて酒をさし持来る 下家風さんそらりりなん
おもありのりりりませんヨ 下家風さんそらりりなん
わんぜまお今日の日曜連の借金を芭蕉平人酒おア
あゝお人々々々々と香をいりるうぐ出来お人
ヤ長今お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶
今の酒をヨロしく茶お茶お茶お茶お茶お茶お茶
さゝいお人々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
お人々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
ちやアちやアちやアちやアちやアちやアちやアちや
下家風さんそらりりりりりりりりりりりりりりりり
そらりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
あおむさお人々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
私がお人々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
のりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
のりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
うはねな裁法がさそそそそそそそそそそそそそそ

ちやアちやアちやアちやアちやアちやアちやアちや
下家風さんそらりりりりりりりりりりりりりりりり
そらりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
あおむさお人々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
私がお人々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
のりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
のりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
うはねな裁法がさそそそそそそそそそそそそそそ

性急な人へ
性急な人へ

さきなるを何の性急な

ひがなるのうらや

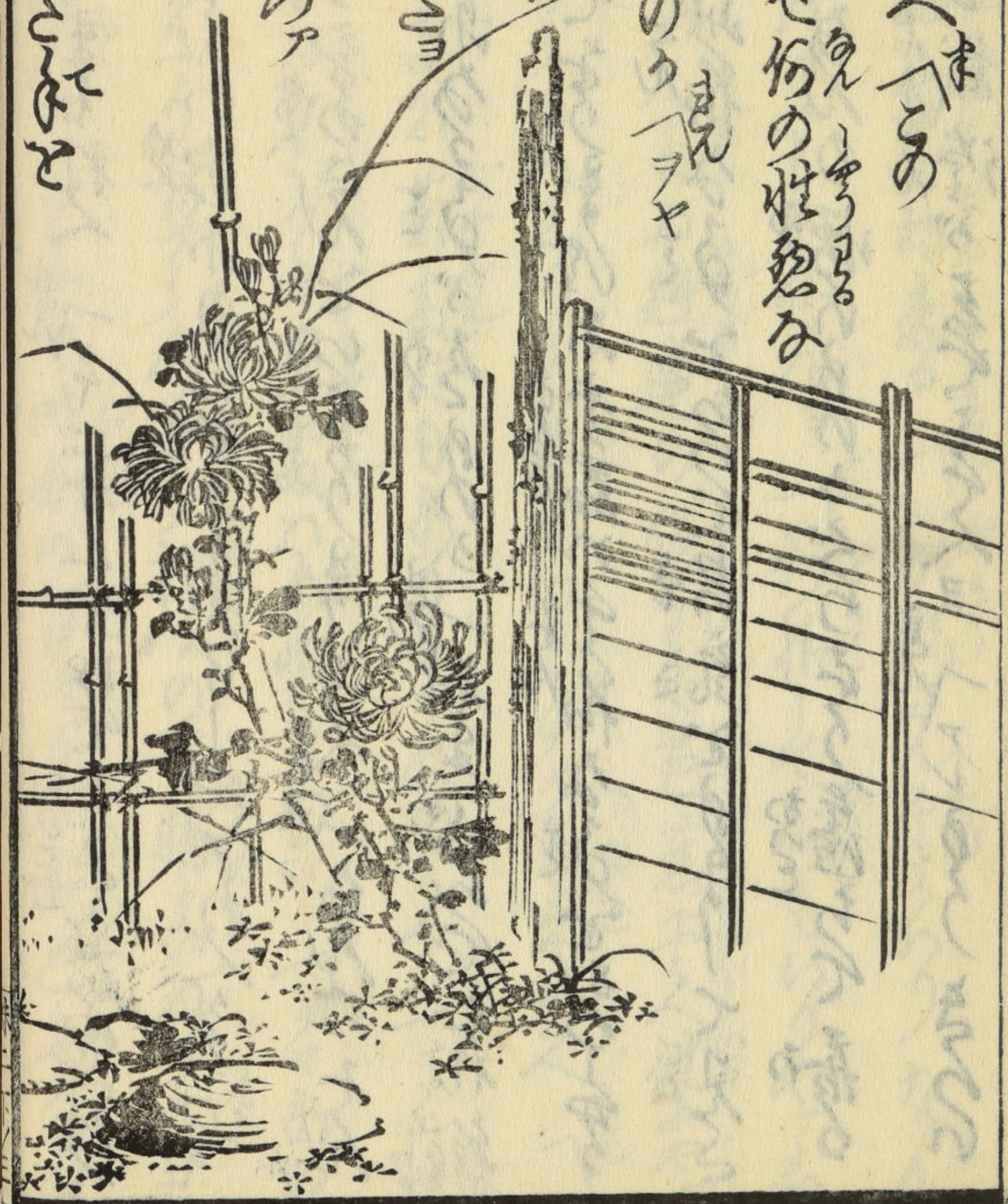
さきなる

かたがた

ホイそのア

大志く

かたがた



あつてアあつて

私があつてあつて

あつてあつて

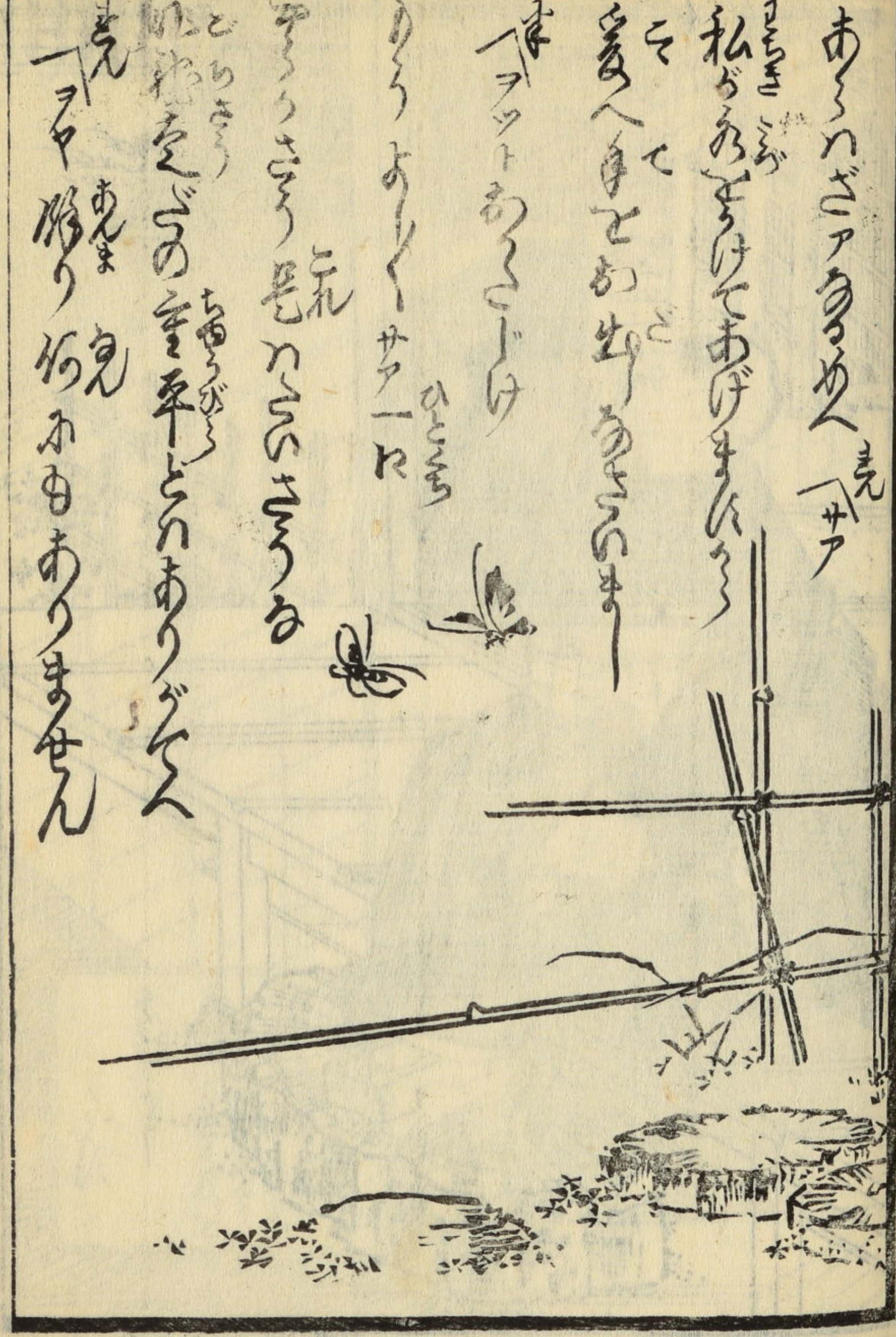
あつてあつて

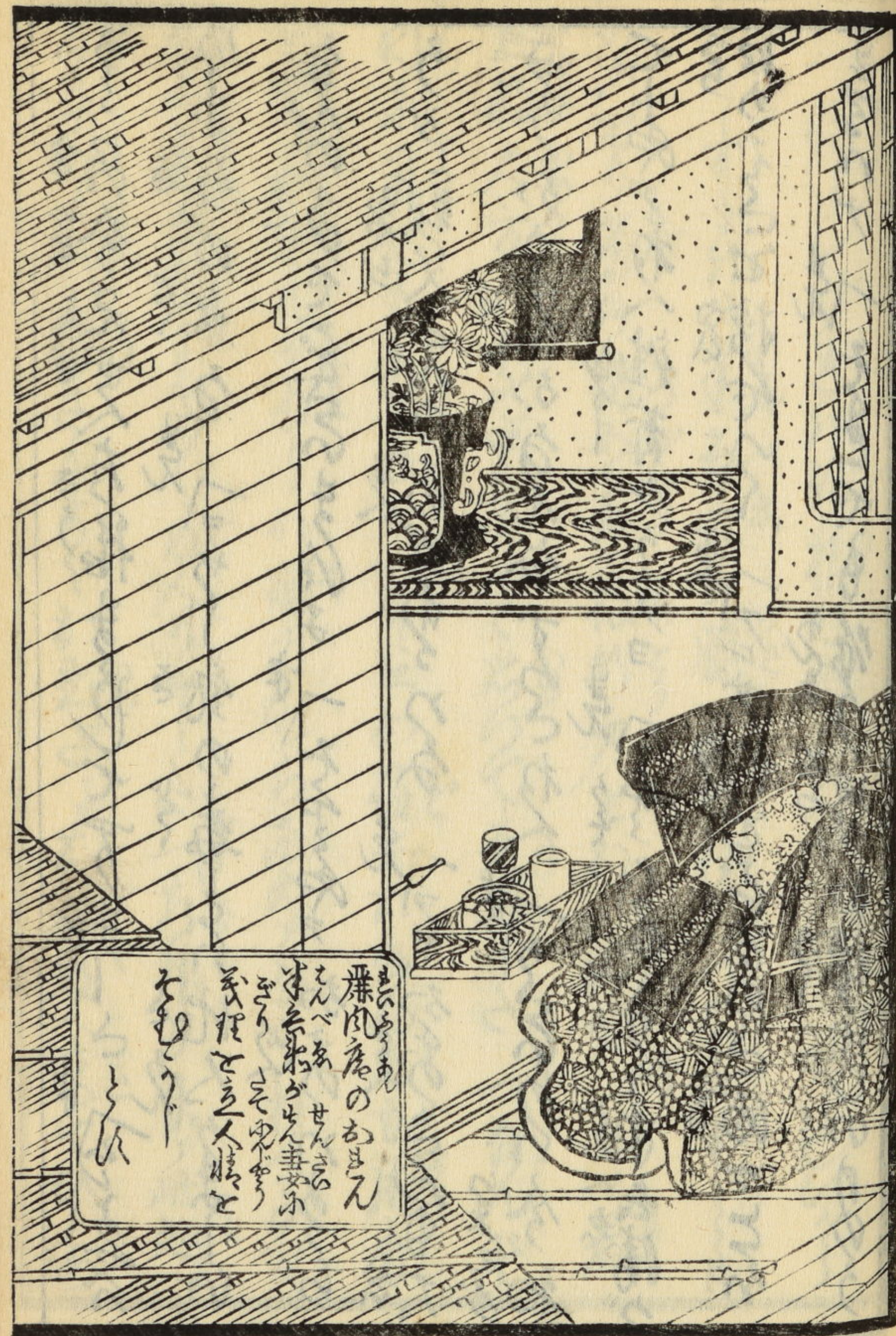
あつてあつて

あつてあつて

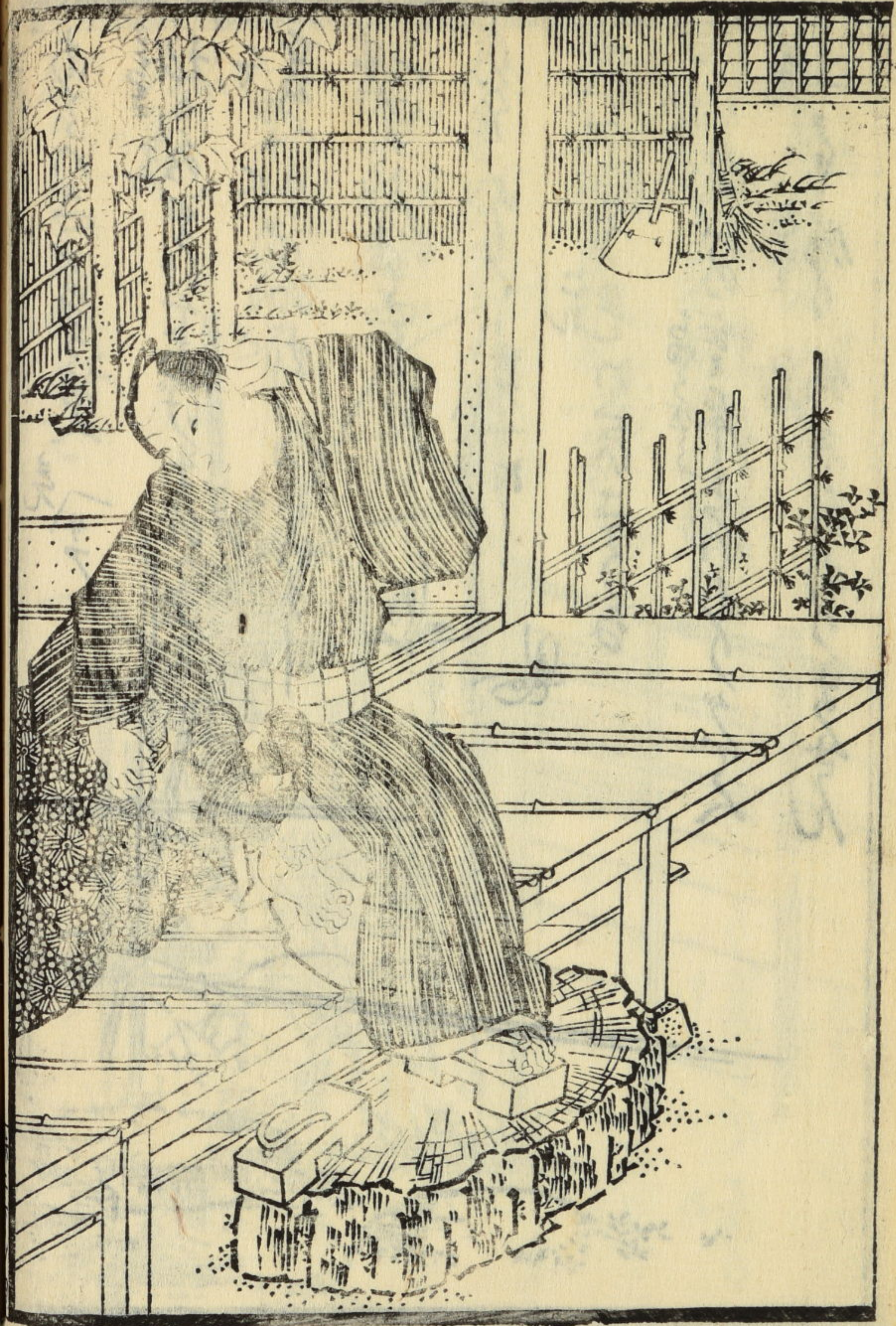
あつてあつて

あつてあつて





まつりあ
 藤丸屋のおきん
 こんべあ せんまの
 半名米が先妻おふ
 ざり 一そゆかき
 義理と立人情と
 そむく下
 とん



うき今見世人花まじしてアアア
いお乳の毒を「アア」乳の毒とい他人がまじい
あんのりでもございません子「アア」アアアアア
うが親父さんのおぢあがりな「アア」アアアさんおた
さうあううああんなすうさね「アア」アアアアア今初
てよアアお人様着ッううヨ「アア」アアアアアアアアア
はのそとと持でつく「アア」アアアアアアアアアアア
まろハナ「アア」アアアアアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア

「アア」アアアアアアアアアアアアアアアア
ううすううアアアアアアアアアアアアアアアア
いふより若の傍を舟枝おアアアアアアアアアア
且相た方けおアアアアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア
いふやせんがアアアアアアアアアアアアアアア
あそアアアアアアアアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア

かあがりる ^揚「アイありごとうびごり」アイトあるをあり
きてとく ^うあがる ^し「あはれおのちらぐ今あるを ^いあがる ^あ
とらぐ ^と何卒 ^まあはれさん ^れお是を ^と届けて ^とさき ^といらん
とら ^あ「やしく下 ^あ何ア ^あ紙へ ^あは ^あん ^あご ^あの ^あの ^あを ^あま ^あき ^あ清 ^あお
清 ^あせ ^あが ^あ「 ^あと ^あり ^あや ^あア ^あん ^あご ^あ「 ^あ何 ^あも ^あい ^あう ^あめ ^あて ^あら ^あう
あ ^あら ^あト ^あり ^あの ^あと ^あく ^あま ^あき ^あ清 ^ああ ^あお ^あア ^あん ^あと ^あ磨 ^あげ ^あて ^あん ^あご ^あ
と ^あら ^あい ^あお ^あま ^あの ^あ郷 ^あの ^あ思 ^あ發 ^あゆ ^あき ^あ「 ^あと ^あれ ^あの ^あ何 ^あれ ^あ「 ^あの ^あ
揚 ^あ「 ^あ何 ^あれ ^あき ^あの ^あも ^あね ^あお ^あま ^あ代 ^あさん ^あの ^あ切 ^あ發 ^あサ ^あキ ^あ処 ^あを

あ ^あの ^あふ ^あう ^あの ^あふ ^あや ^あア ^あ揚 ^ああ ^あて ^あの ^あん ^あ若 ^あ也 ^あ的 ^あと ^あも ^あい ^あう
揚 ^ああ ^あの ^あの ^あい ^あと ^あと ^あ結 ^あお ^あ母 ^あの ^あ思 ^あ法 ^あう ^あか ^あ出 ^あと ^あき ^あ私 ^あ「 ^あお ^あ
陰 ^あへ ^あま ^あ輝 ^ああ ^あの ^あい ^あと ^あわ ^あん ^あも ^あま ^あと ^あら ^あう ^あう ^あう ^あと ^ああ ^あの ^あ
ね ^あう ^あう ^あお ^あま ^あん ^あと ^あは ^あま ^あ輝 ^ああ ^あの ^あつ ^あて ^ああ ^あと ^あむ ^あら ^あう ^あく
き ^あて ^ああ ^あう ^あし ^ああ ^あの ^あの ^あが ^あ何 ^あよ ^あり ^あの ^あ弊 ^あ「 ^あこ ^あの ^あ思 ^あ結 ^あの ^あ私 ^あ
あ ^あの ^あち ^あや ^あア ^あ若 ^あ也 ^あ的 ^あも ^あお ^あん ^あは ^あけ ^あん ^あら ^あう ^あう ^あう ^あう ^あ揚 ^ああ ^あ
と ^あて ^ああ ^あの ^あの ^あや ^あと ^あの ^あ世 ^ああ ^あの ^あつ ^あて ^あね ^あも ^あ月 ^ああ ^あを ^あ知 ^あて
あ ^あの ^あの ^あお ^あま ^あん ^あさん ^あ親 ^ああ ^あの ^あお ^あう ^あけ ^あを ^ああ ^あも ^あわ ^あり ^あこ ^あう

由來おまへさんえと比文輝おあつあつおまへさんえの義
情がまねくゝあふびとありおは方のよみのおれぐ
ふあぐいのえんめたひおまへはんのおまへとあつ
あふ代日橋市おまへりしてよまこー中へりあやま
私の橋な妙橋なぞんきまののぶ橋市親あうん
ぎーせんげへんあんおまへあつて固まどおまへ
中へり世へ橋つてあつてまへ橋まへぬお連のうのお
渡御一おまへをまへてのりおまへりなるおまへんおまへ
おまへん

おまへさんえと比文輝おあつあつおまへさんえの義
情がまねくゝあふびとありおは方のよみのおれぐ
ふあぐいのえんめたひおまへはんのおまへとあつ
あふ代日橋市おまへりしてよまこー中へりあやま
私の橋な妙橋なぞんきまののぶ橋市親あうん
ぎーせんげへんあんおまへあつて固まどおまへ
中へり世へ橋つてあつてまへ橋まへぬお連のうのお
渡御一おまへをまへてのりおまへりなるおまへんおまへ
おまへん

ず
くしあるところ 此処^{ここ}やア一妻^{ひとよめ}祝^{いわ}さらのあかあるう
志^{こころ}あやアあうわ人^{ひと}そまよりのわとあふ代^{しろしろ}が方^{かた}のわね
あつとわむさのつくうおまうううまアき方^{かた}のむさ
まうてあまおまうせとあくがらうまてあまんのね
とどひ切^き髪^{かみ}とまうて固^{かた}おらまるをうりあり傍^{かたわら}むか
まへへあ 一^{ひと}時^{とき}おるは形^{かたち}を髪^{かみ}の毛^けのあさん
乳^{ちち}牙^がをるさびのりて唇^{くちべ}ておんるせ人^{ひと}あのみがたね
まうし中^{なか}一^{ひと}こ更^{さら}をうりうがわがひいとサ 一^{ひと}さる麻^{あし}く

くまうろちねでもあつめ人があんおまうあめ
あまのあやア若^{わか}芳^{よし}をうりしてあんお可^よきこころでト
らであまの切^き髪^{かみ}と懐^{なつか}中^{なか}おわ 一^{ひと}さる下^{した}のさるい
あつめ人^{ひと}う 傍^{かたわら}公^{こう}のつてあまんと下^{した}に中^{なか}て唇^{くちべ}がら
そ内^{うち}おあまのうのつてあまうううちねとあまん
かあひん今^{いま}のあまううう早^{はや}まのこもとあまわ人が
のヨ 一^{ひと}さるあつてうらむのて唇^{くちべ} 一^{ひと}さるね
あつめ人のむざと早^{はや}あこと出^でりぬ

第六回

多田の素師と骨中かへ本町此処の糸屋とらん
 子 出る所つぎさ酒肉の風も由緒こと防々家ことまき清
 が情香くして袴市の尾ふ秋ある七葉の戸にせほと
 飛盛りの虫の音りらふ表やちん親子洞のそのな
 新の分てまき清いのぞく戸をその落ぬりまがしん
 此処ふとぎとて信り二人ぐん根と衣の君の親ふと
 志のりゑる袖の舞もてくまけまが内か入へおひ
 ち

代の内か袴市どりの一ツヤ着且船よくお出あつた
 ましとアとちんおとらさんかーおとらさん且船が
 りるるるるる 袴 へえ左格り是の且船格りお出
 めとましまし「イヤどくぬいおよがね矢張あつた
 何を文お居るせん 袴 イヤーあんたらいしてさぐ
 とらしんことおむれお茶でもあげあののうて
 てる ほんかお舌さくねんおあはら親子の
 んざう ほんかの血をきとらうまぐらおあいのと

えわちうのいひのうらまへんやわたり登りありさひとも
ありなまらうのうらまへんやわたり登りありさひとも
てん情とてしるもまらうのうらまへんやわたり登りありさひとも
かろわんせとてしるもまらうのうらまへんやわたり登りありさひとも
思ふ小淵がこもまらうのうらまへんやわたり登りありさひとも
うを世にまらうのうらまへんやわたり登りありさひとも
男と情のこもまらうのうらまへんやわたり登りありさひとも
りわんせとてしるもまらうのうらまへんやわたり登りありさひとも

るもまらうのうらまへんやわたり登りありさひとも
てん情とてしるもまらうのうらまへんやわたり登りありさひとも
かろわんせとてしるもまらうのうらまへんやわたり登りありさひとも
思ふ小淵がこもまらうのうらまへんやわたり登りありさひとも
うを世にまらうのうらまへんやわたり登りありさひとも
男と情のこもまらうのうらまへんやわたり登りありさひとも
りわんせとてしるもまらうのうらまへんやわたり登りありさひとも

なまじく

りつて四苦の

根とつんたふ

るのがよか別

とひくまゆん

髪はあらせまきんがせまのい

まとおれまきんぞのたえふあ

ねがなむるがむ末はし



そのついでに
きんぐらとまきんぐらにござんどもありまきんぐらむね根で

あやうしうおありはしこを妻のあやうしおをせ殺の内らあつう

と人せん月冷が毒で殺つあひらきんぐらとを論に

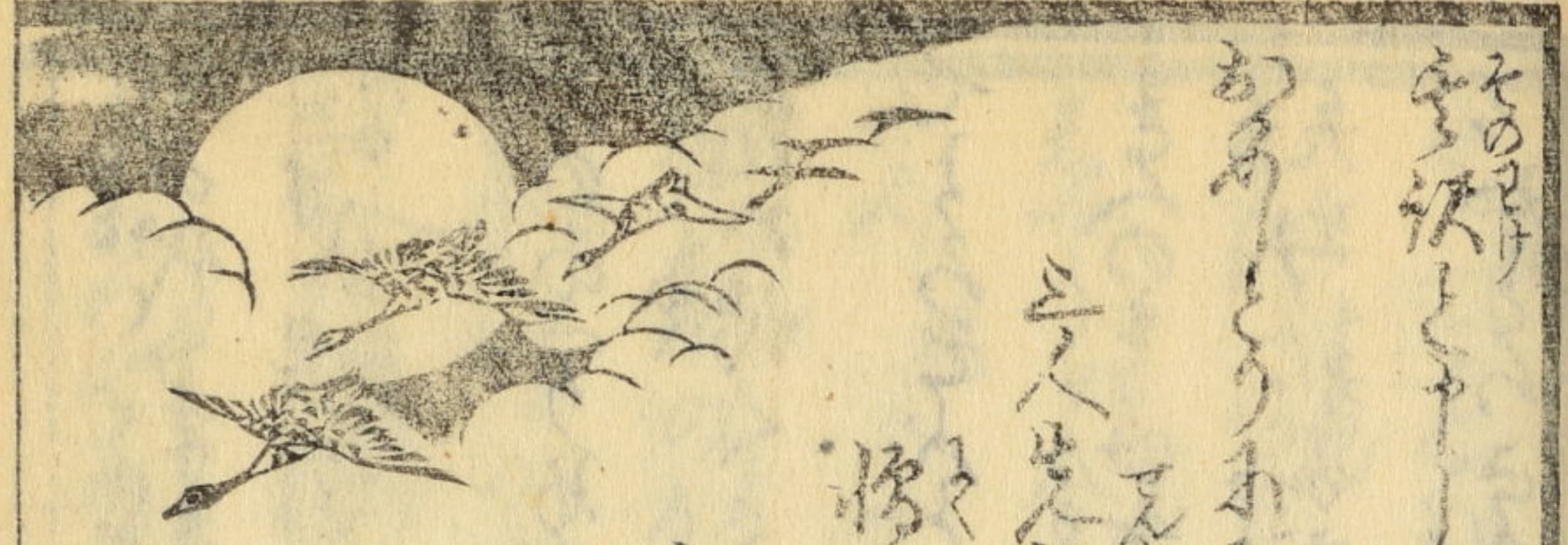
情のとりりあふあむぐらとで人の命を捨てる

とぞんじまふとあしひのあむらぬさのあま

まのあむらぬさめ人の世を提のくああおれ珠

くしてはあむらぬさあむらぬさあむらぬさあむらぬさ

らと老のあむらぬさあむらぬさあむらぬさあむらぬさ

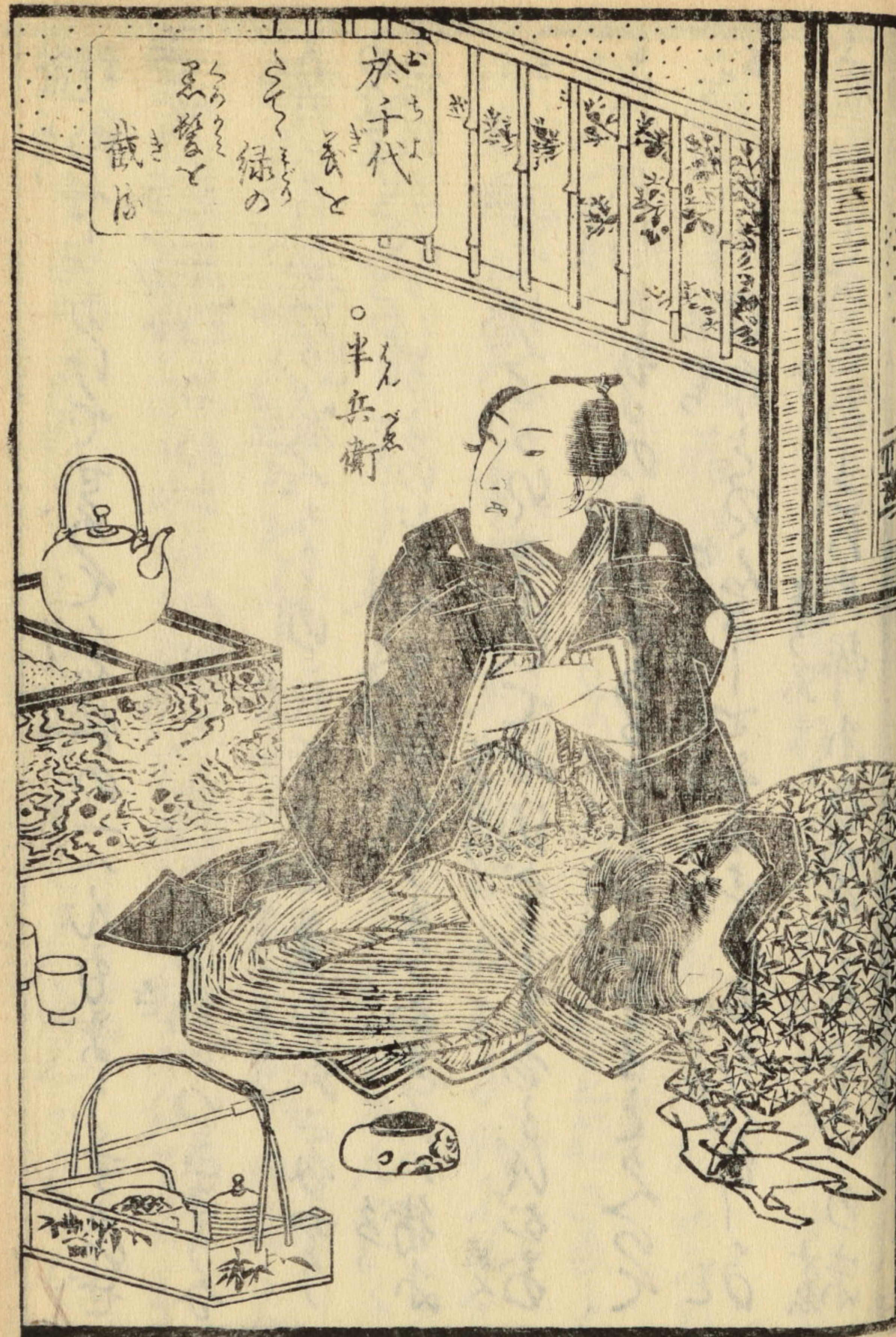


おお代もすき思由御さすもあはれ嘉治の御事お教ぞしとり
ちよ せん 思 御 嘉治 御事 教
 なる不承の御事とてさこのののちるび長人の業ゆらんとせ
不承 御事 ちるび 長人 業 せ
 よのあつりあへどさうそおゆつてえ親子の縁せむさんじい
あつり 親 縁 さん じい
 飛ハ揚ぐとも丈程おしとせささばむわがらん承蒙の御
飛ハ 揚ぐ 丈程 承蒙 御
 せよろろとぶともさうしとわアもあへんヨまアくへ念ごらあさひ
せ 念 承蒙 御
 まんのまじり方でもしとてアがらト懐申より入金ふとまぬ
まん 方 懐申 入金 承蒙 御
 先物かお代おじい母が「おは是のありさうとてさうまん
先物 母 承蒙 御
 へおしらんさん思はれおがともむしんの金おか金とてさあせす
へ おしらん さん 思はれ おが ともむしん 金 おか金 承蒙 御

へい「おはれ」このやうおしんごの事思ありがさう「おはれ」
へい 思あり 承蒙 御
 まん「何の事さうりりけりもあはれおやわへらまじり物振り
まん 何の事 承蒙 御
 承蒙うが今夜の都合がすねんうまアとてさうとてあさる
承蒙 今夜の 都合 承蒙 御
 せん「イヤその由思あいらさうりもせはれ何う物まを
せん 由 思 あいら さうり もせはれ 何う物 承蒙 御
 多幸のおるさけかあるべしすまのりてません
多幸 承蒙 御
 ト金かりさうりて志まふ折程の戸ぬて入来るお連
ト 金 かり さうり て 志 まふ 折 程 の 戸 ぬ て 入 来る お連
 どのお務め御事志中あつてよお承が「承
どの お 務め 御事 志 中 あつて よ お承 が 承蒙 御
 おりのせむんとさうりてさうりて来さ「承蒙お代
おりの せむん と さうり て さうり て 来 さ 承蒙 お代

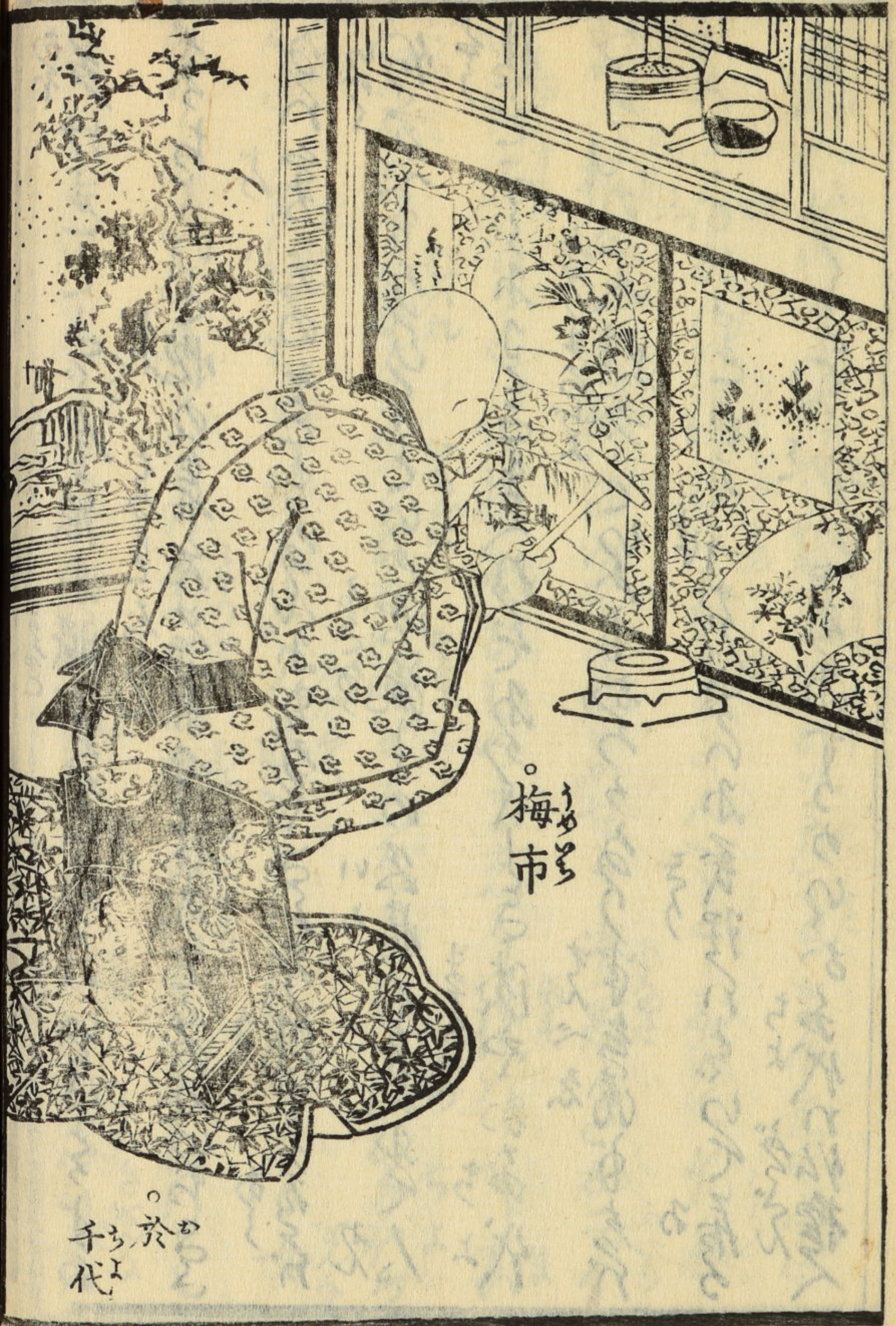
あつこあつこ人にては^{こえんごう}幼童のわびびり^とまたあつこ
すりこ^こわん^{うと}の^ま海山^ます^まあ^まさん^まと^まあ^まり^また^まあ^まれ^ま
ま^ま私^まが^まは^ま文^ま輝^まか^まあ^まん^まま^ませ^まう^まま^ま君^まが^まこ^まお^ま二人^ま
で^まあ^まあ^まが^まく^ま何^まれ^まぞ^まあ^まむ^まり^まま^まあ^まう^ま花^まが^まて^まま^ま
ん^まん^まの^まあ^まさ^まお^ま一^ま片^まの^ま袖^まと^まあ^まが^まり^まけ^まら^まい^まあ^ま代^まが^ま
ん^まぞ^ま一^ま美^ま理^まと^ま美^ま理^まと^まて^ま人^ま情^まと^まあ^まむ^まじ^まと^まま^まる^ま女^ま
あり^まあ^まの^まま^まね^まが^まつ^まの^まあ^ま世^まの^ま根^まも^ま依^まも^まと^まら^まね^まら^まう^ま
あ^まい^まま^まら^ま一^まし^まの^まあ^まら^まび^まや^ま世^まも^まと^まあ^まむ^まじ^まの^ま根^まも^まあ^まれ^ま

多^あけ^あま^あど^あど^あ金^あ浪^あお^あ服^あと^あく^あと^ああ^あら^あり^あし^あも^あら^あす^あわ
と^あら^ああ^あの^あと^あ物^あの^あ鼻^あえ^あも^あ案^あも^あで^あは^あま^あこ^あど^あの^あし^あぢ^ああ^あ
あ^あの^あま^ああ^あの^あま^あも^ああ^あん^あお^あも^ああ^あく^あさ^あら^あう^あ風^あす^あら^ああ^あが^あ
何^あ方^あへ^あも^ああ^あび^あく^あと^あい^あ吹^あ流^あの^ああ^あ情^あを^あら^ああ^あて^あ人^あ
情^あと^あら^ああ^あら^あと^あま^あ人^あね^あぞ^ああ^あく^あし^あと^あ僕^あや^ああ^あ代^あ
あ^あさん^あの^あ二人^あ烈^あ女^あと^あい^あよ^あも^ああ^あら^あう^ああ^あり^あ半^あを^あ流^あも^ああ^あが^あ
あ^あら^ああ^あら^あが^あ「あ^あら^ああ^あの^ああ^あ美^あ理^あの^ああ^あら^あり^あて^あ居^ある^あ
あ^あら^ああ^あら^ああ^あの^ああ^ああ^ああ^あす^あら^あら^ああ^ああ^あ代^あの^ああ^あ権^あ人^あ



於千代
きよと
緑の
きよと
截片

○ 半兵衛



○ 梅市

○ 於千代

枕^{まくら}のせもあけせせめい念^{ねん}仏^{ぶつ}の一^{いつ}へんもまうすがいぜ
「^アさるはおあまごつを^{うけ}受^うあ^まのせも^さ気^きがつ^まう^な
りのでらあいう^こ除^{じゆ}へうの^お親^{おや}でも^ひ非^ひ業^{ぎやう}な^あ死^しご^みやう^う
念^{ねん}ひかあ^まし^ごよの^まぞ^んへ^んを^せ格^{かく}あ^まア^あま^いん^の傍^{はた}お
あ^まに^まて^けける^がい^さし^じて^此法^{ぽう}ご^うう^あら^ひお^あ
ま^まで^ッ尼^にか^ある^のあ^んか^ある^のと^いの^せう^とう^のそ^え
あ^ま代^{しろ}や^袴布^ふと^のら^んご^うと^無お^まら^るも^あん^あ
ご^うう^とあ^まと^あま^の史^し持^ぢお^あの^せご^うう^の末^{すえ}

新^{あらた}ぬい^のが^あより^まや^アわ^んう^アあ^んさ^いさ^さで
ご^ごう^まい^はに^格あ^らあ^まい^んさん^私ご^の親^{おや}あ^あ
お^んづ^らい^のい^かの^ごま^のい^ませ^めお^まは^りは^さめ^と
お^まい^はり^のあ^あつ^てま^まこ^り末^{すえ}と^もお^しら^おお^い代^{しろ}お^眼と
お^まい^はり^のあ^あら^うお^まい^んさん^やお^あ
代^{しろ}さん^とお^あら^うぞ^んド^まお^まい^んの^おま^いは^り
お^まい^はり^のあ^あら^うお^あら^うお^あら^うお^あら^う
お^まい^はり^のあ^あら^うお^あら^うお^あら^うお^あら^う
お^まい^はり^のあ^あら^うお^あら^うお^あら^うお^あら^う

つま 妻おちろてよりさし一ふさのうけみ谷と津と鴨とよび
 ありていこまめくくくそごちなる又猪を弄ぶゆよと
 つま 妻と様しくおおせきも月とふをうと徳とありあつ
 ちくさき栄えなる

いの せどり
 殊脊鳥二編之下大尾

